令和五年度　自己推薦型選抜入試問題　国語

〔一〕　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

(1)伝統的な日本的精神とは、多層的精神という言葉に集約できるのではないか、と私は思っている。もっとも、このことは、これまで日本人の精神のあいまいさとして語られてきたことなのだけれど、それをあいまいさとしてとらえたのは、誤解だったのではなかろうか。そうではなく、さまざまなものを多層的に受け入れるところに、伝統的な日本的精神の(a)トクチョウはあるのではないか、と。

（　A　）、多くの人たちが宗教や信仰に対してとる態度にも、それを感じとることができる。私たちは、ときに仏教を受け入れ、また各地の神々を受け入れるばかりか、道教や世界のさまざまな宗教までも、日々の暮らしのなかで受け入れる。なぜこのような、欧米人にはわかりにくい態度が生まれるのか。それは、日本人の宗教観があいまいだからではなく、受け入れる「精神の層」とでもいうべきものが、それぞれ違うからである。つまり、精神のなかのある層で仏教を受け入れ、また別の層で神々の世界を受け入れるといったことが、自然におこなわれている、といってもよい。

(2)個人と共同性の関係でも、同じような受け入れ方がなされる。日本の人々の精神の一方には、「つきつめれば、生きるも死ぬも吾一人」という(b)テッテイした個人主義の精神があり、他方には共同体とともに生きる共同性を重んじる精神がある。この正反対に位置するふたつの精神が共存しえるのは、現実に生きている世界では、共同体とともに生きる非個人主義的な精神を受け入れ、現実を超越した(c)ジュンスイな生をみつめるとき、人々は、一人で生きるしかない個人主義的な精神を手にしていたからである。ここでも、このふたつの精神を受け入れる「精神の層」とでもいうべきものが異なっている。その結果、奥に個人主義を秘めた、現実には非個人主義的な共同主義が、日本では成立した。

考えてみれば私たちは、精神のある層では、(3)合理的な考え方や論理的なものを受け入れながら、精神の別の層では、非合理的なもの、非論理的なものを受け入れている。受け入れる精神の層が違うから、それが(d)ムジュンをおこすことなく精神のなかで共存している。

伝統的な日本的精神の根幹をなす多層性は、精神を合理的知性に一元化してしまった近代人にとっては、わかりづらいものであったのだろう。（　B　）、日本的な精神をあいまいなものとしてみる見方が生まれ、私たち自身も誤解してきたのであろう。

（　C　）、このような多層的な精神はなぜ生まれてきたのであろうか。私は、その根本にあるものは、やはり、日本的な自然と人間の関係ではないかと思っている。というのは、東アジアのモンスーン地帯に位置する、日本的な自然とともに生きることは、自然の多層性を受け入れながら生きる精神をつくりだすこと、でもあったからである。

自然は、一面では、人間が暮らしていくもっとも重要な基盤である。その意味では、自然ほどありがたいものはなかったことだろう。（　D　）、この東アジアのモンスーン地帯の自然は、人間にとって都合のよいことだけを、してくれるわけではない。台風、豪雨、豪雪、さらに日本では大地震、噴火、津波――それらのものが、人々が長い時間をかけて築いてきた文明を、一瞬にして［E］に帰してしまうこともある。

すなわち、日本においては、自然はありがたいものであると同時に、ときに暴力であり、人間にとっては(e)キョウフでもあった。ところが、それらもまた、すべてが困りものなわけではなく、たとえば豪雪や洪水の後には、それがゆえに豊かな自然もつくられる。

この自然の多層性を受け入れていく暮らしが、伝統的な、多層的な精神をつくりだしていった基盤なのだと思う。だから自然と結びついた暮らしをやめたとき、多層的な精神も混乱するようになったのだ、と。

（内山節『「里」という思想』による）

問1　傍線部(a)～(e)の片仮名を漢字に直しなさい。

問2　空欄（　A　）～（　D　）に入る接続詞の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　ところが→だから→たとえば→ところで
イ　たとえば→ところが→ところで→だから
ウ　ところで→ところが→たとえば→だから
エ　たとえば→だから→ところで→ところが

問3　空欄［E］に入る最も適当な語句を漢字一字で答えなさい。

問4　傍線部(1)「伝統的な日本的精神とは、多層的精神という言葉に集約できるのではないか」とあるが、この伝統的な日本的精神は何によって形づくられたと筆者は考えているのか。最も適切な部分を本文中より二十字以内で抜き出し、答えなさい。

問5　傍線部(2)「個人と共同性の関係でも、同じような受け入れ方がなされる」とあるが、多層的精神によって何を受け入れることができたと筆者は考えているのか。最も適切な部分を本文中より三十字以内で抜き出し、答えなさい。

問6　傍線部(3)「合理的な」の品詞名と活用形を答えなさい。

問7　「秩序」の対義語を本文中より抜き出し、答えなさい。

〔二〕次の各文の傍線部には、語法・表記上の誤りがある。全文を正しい文に書き改めなさい。

ア　発表会の最終日は上へ下への大騒ぎだった。
イ　彼は、三日も空けずに遅刻してきた。
ウ　痛いところを突かれると、いつも彼女は口を濁す。
エ　彼女は、押しも押されぬこの大会の優勝候補だ。
オ　彼は、寸暇を惜しまず働いた。
カ　手料理ですが、遠慮せず召し上がってください。
キ　夫婦別性については、賛成・反対が拮抗している。
ク　次々に店が閉店し、この一帯は櫛（くし）の歯が抜けたようだ。
ケ　逆転勝ちして、去年の雪辱を晴らした。
コ　なおざりな挨拶を交わしていた。